

平成14年度栃木県香港事務所5大ニュース

(平成15年4月1日、香港駐在員)

1. 2002日本年「Autumn Fair (秋日祭)」に、本県ブースを出展

日中国交正常化30周年にあたる昨年は、中国では「日本年」とし、様々な記念事業が行われました。そして香港における「日本年」の最大イベントは、9月7日(土)、8日(日)に開催された日本紹介イベント、「Autumn Fair (秋日祭)」でした。

栃木県香港事務所は、2日間で42,000人もの入場者を集めたこのイベントに2ブース出展し、本県の観光資源や物産を盛んにPRしました。またオープニングセレモニー終了後には、横田淳香港総領事の案内で会場を視察した董建華行政長官が、最初に本県ブースに立ち寄り、日光甚五郎煎餅を試食するという、うれしいハプニングもありました。



2. 香港の日本食品フェア「Japan tastes great」に、県産品26点を出展

9月20日から10月3日までの2週間、香港のプレミアムスーパー「great (グレイト)」で開催された日本食品フェア「Japan tastes great」に、「メイド・イン・栃木」の食品26点を出展しました。



日本全国から1,000点以上もの食品が出展されましたが、なかでも本県産食品からは、香港のマスコミ8紙が取り上げた「パンの缶詰」(黒磯市、パン・アキモト)

や、初日で完売してしまった「那須の月」(那須町、那須ハートランド)、更にはフェア終了後に通常取引が開始された高橋弥次右衛門商店(今市市)の「焼肉のたれ(甘口・中辛)」、「めん素」などヒット商品が続出しました。

3. 香港旅行エージェント6社の担当者を本県に招聘

香港の旅行エージェント6社が10月中旬に実施した東北地方でのツアー開発視察にあたり、香港事務所が栃木県にも立ち寄るように働きかけた結果、10月17日、18日の2日間、日光、鬼怒川の宿泊施設等を調査してもらうことに成功しました。

その結果、日本への送客数では香港一といわれる、耀騰旅行社(Evergloss Tours)から、鬼怒川温泉のあさやホテル等を宿泊先とする「開心歡樂五天円」(4泊5日、東京→栃木→宮城→福島→東京)というツアーが新規発売されました。そして11月25日に初めて催行されて以来3月下旬までに、約1,000人もの香港人観光客が本県を訪れるという成果を収めています。

4. 広州国際旅遊展鎖会（GITF）2003に、本県ブースを出展

3月26日から28日までの3日間、中国・広東省広州市で開催された広州国際旅遊展鎖会（GITF）2003に初めて出展し、本県の観光PRを行いました。

経済成長著しい中国は、今後、最も有望な海外旅行市場になることが見込まれており、政府の訪日旅行推進キャンペーン、「ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）」の重点地域にも指定されています。しかし現在のところ、日本への団体観光旅行が認められているのは、広東省、北京市、上海市の住民に限られており、うち広東省からの来訪者が全体の6割以上を占めています。そこで香港事務所は、本県の、中国本土における初の観光プロモーションを広東省において実施することにしました。

広州市在住の栃木県出身者などの協力を得て出展した香港事務所は、観光PRに努めるとともに、入場者100名を対象に本県観光地に関する聞き取り調査を行いました。その結果、日光の知名度が比較的高いことが分かるなど、今後の誘客活動にあたって貴重な手がかりをつかむことができました。



5. 宇都宮大学と香港大学、本格的な交流開始

宇都宮大学と香港一の名門大学である香港大学は、香港事務所と商工振興課の仲介により、「学術交流に関する協定」及び「学生交流に関する覚書」を締結し、今後、教員や学生間の交流を開始することになりました。

昨年10月、県女性青少年課でインターンを実施していた何文儀（ウィニー・ホー）香港大学大学院生が、北島滋宇都宮大学副学長と面談したことがきっかけで、両大学の協定書の締結による交流について協議が開始されることになりました。

そして両大学の熱意により、約半年弱という他に類をみないスピードで協議がまとまり、3月27日には北島宇都宮大学副学長らが香港を訪れ、ジョン・スピックス香港大学副学長に対して、協定書（案）と覚書（案）を手渡しました。これら文書は後日、正式に発効しました。

宇都宮大学と香港大学との本格的な交流開始は、本県と香港の友好交流関係に新たな道筋をつけることが期待されています。交流開始にあたっての、「生みの親」である香港事務所も、両大学の交流関係が少しでも深まるように、今後とも全力投球してゆきたいと考えています。

